

第2回下野市総合計画審議会 会議録

日 時	平成29年2月3日(金) 午前10時～12時
場 所	下野市役所庁舎 203会議室
出席委員	中村祐司会長、大島昌弘委員、塚原良子委員、磯辺香代委員、三橋明美委員、高田憲一委員、高山和典委員、永山茂夫委員、川俣一由委員、鱒淵泰子委員、赤穂敏広委員、錦野幸子委員、稲田智秀委員、山口貴明委員、鈴木祐孝委員、前原保彦委員、小島恒夫委員、島田実委員
欠席委員	江田俊夫委員、山口富男委員、小幡洋子委員、佐間田香委員
出席者	板橋副市長、長総合政策部長、山中総務部長、布袋田市民生活部長、小口健康福祉部長、高德産業振興部長、石島建設水道部長、野澤教育次長
事務局	星野総合政策課長、浅香主幹、相馬主事
傍聴者	無

○次第

- 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 議事
 - (1) 第1回総合計画審議会が出された意見・提言に対する回答について
 - (2) 下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の KPI の変更について
 - (3) 平成28年度における地方創生推進事業の進捗状況について
 - (4) 下野市における今後の地方創生推進事業の取組みについて
 - (5) その他
- 5 閉 会

○開会

(事務局) 平成28年度第2回下野市総合計画審議会を開会する。

○あいさつ

(事務局) 開会にあたり中村会長よりごあいさつをお願いしたい。

(中村会長) 皆様、おはようございます。第2回目となる総合計画審議会を行うにあたり、ご挨拶申し上げます。さて、1都3県に人口が流出し、北関東でも流出する人口が増えているとの新聞記事を拝見しました。栃木県においても少しずつ人口は減っており、200万人を切っております。県内の25市町の中では、下野市は人口減少が緩やかではありますが、今後に向け、総合計画、総合戦略を着実に実行していきたいところではないかと考えております。4月に、我が大学においても「地域デザイン科学部」が発足し、私もそちらに移りましたが、地域とつながることが、地域を元気にしていく上で必要

ではないかと強く感じています。ここにお集まりの委員の皆様は、地域社会の現場でご活躍されている方々ばかりですので、私もみなさまとつながることで、地域とのつながり、ひいては社会とのつながりを持つことができる場として考えております。地方創生と一言で言いましても、分野が多岐にわたります。また、地方創生推進本部より各部長様ご出席されていることは、この会議の重みを感じる次第です。短い時間ではありますが、委員の皆様には様々なご意見を出していただきたいと思っております。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局) ありがとうございます。本日は、庁内組織である地方創生推進本部を代表して板橋副市長が出席しているため、板橋副市長よりごあいさつ申し上げます。

(板橋副市長) おはようございます。本来であれば地方創生推進本部の本部長である市長が挨拶を申し上げますところであるが、只今、小山広域保健衛生組合の臨時議会に出席しているため、私が代わりに一言、ご挨拶申し上げます。中村会長はじめ、委員の皆様におかれましては、お忙しい中、第2回総合計画審議会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。下野市は、1月10日に市制施行11年を迎え、新庁舎において賀詞交換会を開催することができました。合併以来、6か所に分散していた職員が新庁舎に集まり、業務を開始して9か月が経ちます。職員の一体感の醸成、業務効率の向上を少しずつ感じているところであります。昨年を振り返ると、下野市においては、高藤直寿選手のリオデジャネイロ五輪での銅メダル獲得にはじまり、栃木下野リトルシニアの全国制覇、本市出身の選手も出場した作新学院高等学校の甲子園大会優勝、今年に入り、本市出身の選手が参加した全国高等学校サッカー大会での佐野日大高等学校の第3位と、スポーツに関する嬉しい話題が続いております。一方で、アメリカ大統領にトランプ氏が就任し、国益最優先、他者を思いやらない差別的発言など、世界が困惑している状況とともに、世界経済の不透明性が増しております。下野市は住みやすいと定評を受けておりますが、その背景には、自然、交通、居住、医療、歴史、文化などの多様で豊かな地域資源があることはもちろん、豊かな風土が育んだ他者を思いやる穏やかな市民が多いことが魅力ではないのかと思います。下野市を発展させるためには、あらゆる行政分野において、市民との協働でまちづくりを進めることが重要で、それが市の将来像である「ともに築き 未来へつなぐ 幸せ実感都市」につながるものと考えております。さて、平成29年度当初予算の編成作業もほぼ終了しました。平成29年度は、本市の総合計画、地方創生の取組を着実に推進することに主眼を置き、「地方創生実行予算」としました。都市再構築のビジョンづくり、東京圏から下

野市へ人を呼び込むために、移住・定住の受け皿となれるようなビジョンづくりを掲げております。昨年、8月22日に開催した、第1回目となる本審議会においては、総合戦略において掲げた4つの基本目標に係る数値目標および具体的な施策に係るKPIの平成27年度の達成度について報告させていただきました。また、庁内においても、地方創生推進本部会議を11月と1月に開催するなど、全庁をあげて地方創生を進めているところです。本日は、平成29年度の地方創生推進に関する取組や地方創生拠点整備交付金に申請を出した事業の概要についても、ご報告をさせていただければと思います。委員の皆様におかれましては、本市の地方創生をはじめとした各施策の推進のために忌憚のないご意見をいただければと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

(事務局) ありがとうございます。本日も、前回に引き続き、総合戦略の施策を担当する各部長が出席しております。それでは、この後の議事進行に関しては、中村会長にお願いいたしますので、よろしく願いいたします。

(中村会長) はじめに、会議の成立、会議署名人の確認を行う。本日は欠席4名であり、出席者は定数の過半数を超えているため下野市総合計画審議会条例第6条第2項により会議は成立となる。本日の会議署名人は、慣例に従い名簿順により大島委員と三橋委員にお願いする。それでは、議事に入る前に、事務局より資料の確認を行う。

(事務局) 配布資料の確認をさせていただく。資料は事前に配付させていただいた「会議次第」、「第1回下野市総合計画審議会」で出された意見・提言に対する回答(資料1)、「総合戦略のKPIの変更について(資料2)」、「平成28年度地方創生推進事業の進捗状況一覧(資料3)」、「地方創生拠点整備交付金申請事業一覧表(資料4)」、資料4に関する「位置図や写真などの参考資料(資料4参考資料)」、「平成29年度に予定する主な地方創生関連事業一覧表(資料5)」である。また、本日追加で配付させていただいた市の各PR資料に関しては、後ほど説明させていただく。

○議事

(1) 第1回総合計画審議会」で出された意見・提言に対する回答について

(中村会長) 前回の本審議会において、委員の皆様よりいただいた様々なご意見に対して、事務局で回答を取りまとめたとのことなので、ご説明をお願いする。

(事務局) 資料1「第1回下野市総合計画審議会」で出された意見・提言に対する回答」に基づき説明。

○資料1の内容は、前回の本審議会で委員の皆様よりいただいた意見・提言について、11月と1月に開催した地方創生推進本部において協議した内容を取りまとめたものである。

○各意見・提言に対する回答については、資料の通りである。

(中村会長) ただいま事務局より説明がありました。これら回答に関して、委員の皆様、何かご意見はあるか。

(委員) <意見なし>

(中村会長) 前回、委員の皆様より積極的な意見を出していただき、担当課としては改めて各指標の確認の機会となるとともに、総合戦略のブラッシュアップにもつながることと思う。また、各担当課での改善へのきっかけともなるので、非常に重要で価値のあることだと考える。回答に関してご意見がないようであれば、次の議題へ移る。

(2) 下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPIの変更について

(中村会長) それでは、次の議題に入る。総合戦略の進捗管理については、前回「下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価分析シート」を用いて説明を受けたが、KPIに関する変更については、評価分析シートに赤字で示し、修正を行っていたところである。具体的な内容について、事務局より、説明を願う。

(事務局) 資料2「総合戦略のKPIの変更について」に基づき説明。

○KPIの変更については、第1回の本審議会において、「下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価分析シート」の記載について赤字で修正の上、委員の皆様にお示しし、各項目について一つ一つ説明を行った。

○資料2「総合戦略のKPIの変更について」は、変更となる箇所を改めて抜き出し、一覧としたものである。資料2の備考欄には、変更となる理由を記載している。

○KPIの進捗管理を進めていく中で見直しを行ったもの、総合計画をはじめとした各種計画が策定され、それらと整合性を図るために修正を行ったものが、主な理由となっている。

(中村会長) ただいま説明のあった内容について、委員の皆様からのご意見はあるか。

(小島委員) 「72 認知症サポーター数」の5,455人、「88 公民館の利用者数」の15万4,200人、「93 グリムの森・グリムの館の来園者数」の9万1,800人など各目標値について、総合計画など各計画との整合性を図るために変更するとのことだが、数値が細かいように思うが、いかがか。

(中村会長) 細かく積み上げてこのような数字になったものとは思われるが、目標値として見せるのであれば、もう少し切りのよい数字である方が

- 良いのではないか。そのようなご意見でよろしいか。
- (小島委員) はい。例えば、「72 認知症サポーター数」であれば5,500人など、目標値であるならば、切り上げて数字を丸めた方が良いのではないか。
- (中村会長) この点について、事務局としていかがか。
- (事務局) 総じていえば、個別計画で定めた数値を引用し、整合性を図ったものであるが、小島委員のご意見のように見せ方として切り上げた方が良いというご意見があれば、担当課と調整の上、検討させていただきたい。
- (中村会長) 仮に再度変更となると、本審議会での了承が必要かと思われる。その他、率直なご意見をお聞かせ願いたい。
- (島田委員) 「72 認知症サポーター数」について、年間およそ680人ずつ増やしていくということで、基準値に加えていった結果、5,455人という目標値になっているのであるから、このままでも良いのではないかと考える。
- (中村会長) 資料にあがっているものは変更となるものだけで、ここにあげていない、その他のKPI項目の中にも切り下げや切り上げを行っていない目標値もあるかと思われる。
- (事務局) 「72 認知症サポーター数」については、すでに年度目標値を達成している事情も鑑み、切り上げることに担当課と協議をしていきたい。ただし、「88 公民館の利用者数」や「93 グリムの森・グリムの館の来園者数」について、委員の皆様でご審議いただき策定した上位計画である総合計画との整合性を図るものであることから、これらの目標値に関してはお示しした数値でお願いしたい。
- (小口健康福祉部長) 「72 認知症サポーター数」については、先ほどから話に出ているように、基準値である2,085人に、年間680人増やしていくという高齢者保健福祉計画に基づいて積み上げた数値のため、端数が出たものである。この点については、地方創生推進本部会議の際に事務局に提言をしたが、第1回の本審議会において、すでに5,455人とお示しをしていることもあり、今回この数値でお出しした。健康福祉部としては、委員の皆様のご了解いただけるのであれば、5,500人に切り上げて数値を丸めることに関しては構わないと考える。
- (中村会長) 「72 認知症サポーター数」については切り上げることが可能ということだが、項目に応じては難しいものもあるということなので、項目に応じて可能な範囲で切り上げるなどしていただき、その範囲で本審議会としては了承するというところでまとめたいがよろしいか。
- (委員) <異議なし>

(中村会長) そのような形で協議を進めていただき、この点は事務局でお願いする。

(3) 平成28年度における地方創生推進事業の進捗状況について

(中村会長) では、次の議題に入る。資料3の一覧表について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) 資料3「平成28年度地方創生推進事業の進捗状況一覧」及び資料4「地方創生拠点整備交付金申請事業一覧表」に基づき説明。

【資料3「平成28年度地方創生推進事業の進捗状況一覧」の内容について】

- 地方創生加速化交付金を活用しながら進めている事業を中心に説明。
- 「2 しもつけ・未来・プロモーション事業」では、動画の制作、Pepperを活用してのプロモーション活動、移住促進セミナーなどを開催した。当日追加で配付した資料参照（移住セミナーやシティプロモーション活動の様子の写真資料）。
- 「3 地域連携事業」としては、ツール・ド・とちぎへの負担金の支出、壬生町、上三川町との1市2町連携での年3回の婚活事業を開催する（すでに2回開催し、3月に第3回を開催予定である）。
- 「6 観光プロモーション事業」では、東京圏からの誘客によるモニターツアーの開催やキャラバン隊によるPR活動を実施した。また、様々なノベルティグッズやるるぶ下野を制作し、配布を行っている。
- 「7 下野ブランド推進事業」では、しもつけブランドフェアを道の駅で10月に開催し、大変な賑わいをみせた。また、輝けふるさとエール大使を任命し、今後、市のPR活動にご尽力いただく予定である。
- 「11 定住希望者住宅取得支援事業」では、家庭菜園の整備補助として5件の申請の受付を行っている。
- 「12 地元農畜産物普及事業」では、ウェスティンホテル東京にて開催した「かんぴょうサミット」、これに付随して開催した報告会等を実施した。また、スタンプラリー「しもつけGO」では、東京圏の方々に下野市に実際に来ていただき、スタンプを集めると、地元農作物を贈呈するという企画を行った。
- 「15 東の飛鳥プロモーション事業」では、薬師寺のVR（ヴァーチャルリアリティ）コンテンツを制作しており、年度内に完成予定となっている。また、新庁舎において、復曲能の上演を行った。

【資料4「地方創生拠点整備交付金申請事業一覧表」の内容について】

- 国の平成28年度第二次補正予算において「地方創生拠点整備交付金」という交付金が創設された。これは、地方創生の深化に寄与し、未来への投資につながる施設整備事業（ハード事業）に対して交付されるものである。
- 交付金として国より2分の1が交付され、各市町村では事業費ベースで1億2千万円が上限となっている。国の流れに呼応し、本市においても地方創生に資する施設整備を行うため、3件の事業を国へ申請した。その3件の概要が、資料

4 記載の事業である。それらに関する位置図や写真を資料 4 参考資料として配付した。

- 民俗資料館「夜明け前」のリノベーション事業は、民俗資料館「夜明け前」を古民家カフェ及び多目的スペースとしてリノベーションするとともに、隣接する展示室をテイクアウトができるデリカテッセン形式の厨房へと改修し、観光客や市民の憩いの場とする事業である。天平の丘公園地域の観光資源を有効活用し、天平の花まつり期間以外にもひとの流れを生み出すことで、市のプロモーションに貢献してだけでなく、道の駅しもつけ等との周遊性をもたせる仕掛けづくりや歴史ボランティアなどと連携し、市民協働で観光プロモーションを展開していく。
- 下野薬師寺歴史館増改築事業は、薬師寺歴史館北側スペースに増改築を行い、ボランティア活動拠点の確保をするとともに、現在作成中の VR コンテンツの活用スペースを設置する。本市が誇る歴史や文化財を積極的に活用し、シティプロモーションなどにつなげていく。
- グリムの館「お菓子の家」増築事業は、イルミネーションをはじめ様々なイベントが行われ増加傾向にある利用者・来館者に対し、不足している控え室等を確保するため、グリムの館の外に「お菓子の家」をモチーフにした建物を増築し、物販コーナーなどを移転する。お菓子の家では、お土産物屋やテイクアウトフードの販売施設としても活用する。増加する集客を取り込み、稼ぐ力に結び付けていくことを狙っている。

(中村会長) 事務局より説明があった通り、積極的に国の交付金を活用していこうということで、様々な取組を行おうとしている。それだけ下野市には、地域資源があるということでもある。平成 28 年度を取組や今後の取組に関する報告という形であるが、委員の皆様からのご意見やご質問はあるか。

(前原委員) 資料 3 の「6 観光プロモーション事業」におけるモニターツアーについて、「市の印象や改善点等の意見収集」をしたとあるが、内容や結果についてまとめていけば参考までに教えていただきたい。

(中村会長) モニターツアーで訪れた方が下野市をどのように見たかということ伺いたいということか。

(前原委員) はい。併せて、参加者の年齢層・年代なども教えていただきたい。

(高德産業振興部長) 第 1 回については 37 名の方からアンケートの回答をいただき、50 代の方が 15 名と一番多く、40 代が 5 名、60 代が 8 名となっており、40 代から 60 代の方が多く参加している状況である。男女比については、男性と女性の比率が概ね 1 対 2 となっており、女性の参加者が多かった。職業については会社員や主婦の方が多いという結果であった。また、「どのような方と参加されたか」という

- 質問に対しては、「家族」、特に「夫婦」という回答が多かった。さらに、「下野市に足りないものは何か」という質問に対しては、「駅からの交通手段が少ない」、「宿泊施設が少ない」という意見が出ている。モニターツアーの感想（風景）については「ふつう」「まあまあ良かった」という意見の方が多かった。アンケートの集計については、第4回目を実施後に4回分を集計し、お示しすることも可能である。必要となる場合には、事務局へお伝えいただきたい。
- (中村会長) ありがとうございます。その他、ご意見やご質問はあるか。
- (小島委員) 資料3「2 しもつけ・未来・プロモーション事業」の中にある、若手職員有志による「しもつけ未来塾」について、具体的に何名いて、どのような目的で、どのような活動をしているのか教えていただきたい。
- (事務局) 現在、「しもつけ未来塾」は若手職員12名で構成され、立ち上げてまだ8か月の若いグループである。しもつけ未来塾は、就業時間外に自主的に集まり、自ら楽しく活動をすることで地域を少しでも盛り上げることを目的に活動をしている。具体的には、市庁舎で開催された「しもつけフェスティバル」、石橋地区で開催された「しもつけマーケット」など、地域の方々が開催するイベントに出店やボランティアで参加をした。また、若者が集って下野市の事を気軽に話せる場があったらよいのではないかとということで「しもつけふらっとラウンジ」というワークショップを開催したり、下野市を自転車で周る「しもつけディグリングツアー」などを企画したりと、少しでも下野市に楽しいことを増やせればと思い活動をしている。今後様々な活動を計画しているが、まだ活動をはじめて間もないグループである。今後なにかお手伝いできることがあれば、地域の方とのコラボレーション、もしくは地域の方々を巻きこんでの活動をしていきたいと考えている。
- (小島委員) このような若い人の動きはすばらしいことだと思うので、市でもそのような団体を育てていただき、若い人の感性を取り込んで市の活性化を促してほしい。ITなども活用し情報発信などを積極的に行いながら、今後も頑張っていたきたい。
- (磯辺委員) ちなみに、参加されている若手職員とは、年齢はいくつぐらいの方々なのか。
- (事務局) 現在のメンバー12名のうち7名が今年度採用された職員であり、年齢は23歳から32歳、採用1年目から8年目までの職員で構成されている。
- (中村会長) 若い人の力を取り入れていくことはすばらしいですし、重要である。若い人という話ということであれば、先ほど出てきた古民家カフェなども歴史好きの女性が増えているが、大学の若い学生たちにも大変人気のあるスポットとなるのではないだろうか。その他、いかが

- か。
- (前原委員) 天平の丘公園についてですが、日光や大田原から下野市に来られる方々から「県の埋蔵文化財センターに車で行きたいが、どこにあるのか」と場所を尋ねられることがある。国道4号線沿いに「ここを右折」という看板が一つあるが、その先になんの看板もない。PRが足りないのではないだろうか。「天平の丘公園まで1キロ」などの看板を出すとよいのではないか。史跡や文化財があることは大変素晴らしいことだが、ただそこにあるというだけで、市外の方には場所が分からないのではないだろうか。そういう意味でのPRもしていくと、さらに人が訪れやすくなるのではないか。
- (中村会長) ありがとうございます。資料4に関するご意見である。その他、いかがか。
- (磯辺委員) 地方創生拠点整備交付金については、資料4にあげられている事業は国にすでに申請され、交付金を受けられることがある程度決まっているということか。
- (長総合政策部長) 資料4に記載の事業については、すでに国に申請をしており、内示はまだ出ていない。
- (磯辺委員) 平成28年度の事業ということならば、3月の補正予算に出されるということか。
- (長総合政策部長) 3月の補正予算に計上し、翌年度に全額繰越しとする予定である。
- (磯辺委員) それは、これらの事業が実現するかどうかは、内示が出ていない現時点では分からないということか。
- (長総合政策部長) 2月の上旬には内示が出る予定となっている。
- (磯辺委員) ①「夜明け前」の事業に関してだけは、若干の懸念を抱いている。内示が出ていないので実現するかどうか分からないことを議論すべきかどうかという点はあるが、懸念について意見を述べるのはよろしいか。
- (中村会長) 内示についてはどうなるかわからないが、意見を述べるのは構わないと思われる。
- (板橋副市長) 少し私からご説明させていただく。地方創生拠点整備交付金は、地方にとって待ちに待った交付金である。今までの地方創生に関する交付金がソフト事業を中心としたものであり、地方創生加速化交付金は交付率10分の10での交付、地方創生推進交付金からは2分の1の交付となっていた。そのような状況の中で、この地方創生拠点整備交付金はハード事業を対象としたものであり、この機運に乗じて、本市では3つの事業を申請したところである。先ほど、総合政策部長からお話しした通り、正式な内示はこれからとなる。これを2月議会に上程させていただいて、ご審議いただきたいと考えている。ただし、これは議会の議案となるので、やり方など、大きくこのようにしたら良いのではないかなどのご意見がありましたら、

- この場でお聞きしたい。
- (中村会長) 議会などがあり、順序についてもあるようですが。委員の皆様、いかがか。
- (磯辺委員) この場でご紹介される以上は、例えば、この①「夜明け前」の事業をなぜやろうとしているのか、どのようなコンセプトでやろうとしているのかなど、みなさんがお聞きになりたい場合には、この場で回答を求めても良いのではないか。仮に、交付金が採択されなかったとしても、このように詳しく書いてあるということは、何か考えがあって実施するということでしょうか。よろしいのではないか。
- (中村会長) 私が、この議題について報告という位置づけで進めてしまっていたので、そのように思われたのでしょうか。失礼しました。ご質問だけでなく、このようにした方が良いのではないか等のご意見でも構わない。すでに国に申請をしているので、これを全く変えるという目先の事ではなく、将来を見据えて大きくこのようにした方が良いという方向性など、また、これを選定した理由など、何かあればこの場を出していただきたい。
- (磯辺委員) ①「夜明け前」の事業に関して、以前、薄墨亭という施設を建て、大失敗に終わっているという過去がある。それでも、この場所に通年で人を呼び込もうという積極的なお考えなのか、あるいは花まつり期間中だけの話なのか。また、お客さんを一年中呼び込むだけの力を持った「夜明け前」にできるのかどうか。今までのやり方では、不安がある。その点について、詳しく教えていただきたい。
- (板橋副市長) 天平の丘公園は、花まつり期間中には約20万人訪れているが、それ以外の時期は閑散としてしまっている。やはり、都市公園の位置付けをし、通年を通して人に来ていただく公園にするためには、様々な工夫が必要である。例えば、公園南側の木がうっそうと茂っている場所は、以前は、女性の方は薄暗くて怖く、行きたくないと話していた。しかし、毎年、間伐を行うことで、今ではだいぶ明るくなり人も通るようになった。また、道の駅には約260万人の方が訪れるが、そこに訪れた方を市内に周遊させるためには、仕掛けづくりが必要であり、三王山も現在整備を進めているところであるが、天平の丘公園も重要な位置づけとなるものと考えている。今までの失敗があるとのお話もあるが、古民家カフェは、市民の方々が集い、情報交換を行う場だけではなく、小さなコンサートを開くなど自己表現をする場としても、とても素晴らしい施設である。そして、そのような施設を市が直営で運営をするのではなく、積極的でやる気のある市民の方々に関わっていただき、市民協働で行っていき、それを継続させていきたいと考える。今までの失敗も踏まえて取組み、成功させたいので、ご理解をいただきたい。
- (中村会長) 申請で採択されることが望ましいが、その先も見据えて皆様のご発

言してくださるのでありがたい。どうぞ、他にご意見あればお願いしたい。

(島田委員) 現代は車社会であるが、例えば、駅から徒歩で薬師寺に行き、道の駅に立ち寄った後に天平の丘公園まで周るのは大変厳しい。もちろんレンタサイクルなどはあるが、下野市を訪れた方が、3か所ないし4か所程度市内を周れるような交通手段についての計画はあるか。

(高德産業振興部長) 確かに、JRを利用する方が駅を降りると、レンタサイクル以外では市内を周るためにはタクシーしかないのが現状である。現在、着地型観光の検討を進めており、実現するかどうかは現段階では未確定だが、タクシーで半日や3時間などで市内を周遊できるコースを作成し、例えば、タクシーの料金の半額を市や観光協会が補助するなどすることができないか検討をしているところである。

(中村会長) ボランティアの方などと連携して、市民の方の意見も交えながら検討を進められるといいかもしれない。

(板橋副市長) 下野市は、歴史・文化のまちであり、歴史文化基本構想を足利市に次いで、今年度策定する。それに続き、平成29年度に歴史的風致維持向上計画を策定する予定である。この計画は、歴史資源を活用し、まちづくりを行っていきこうというものである。ハードの面に関しては、先ほど前原委員からご指摘いただいたサイン(標識)整備も重要であるし、また、歩道なども歴史を醸し出すように整備するなど検討をしていく。ソフト面については、高德産業振興部長より話が出ていた、タクシーなどをうまく活用し、市内を周遊するような仕組みづくりをしていかなければならないと思っている。本市は、とても平坦な土地であるので、やはり自転車で走るのがとても楽しい。山口委員が作られたディグリングマップや、鈴井委員が作られたお散歩マップなどもある。うまくこれらを活用するためにも、統一したサイン(標識)計画を作成したい。さらに、駅を降りた際に、この街にどのような文化資源があるのか一目で分かる地図なども必要だと考える。そのようなことを踏まえて歴史的風致維持向上計画の策定に取り組む。

(前原委員) 天平の丘公園に関連して、県の埋蔵文化財センターは(公益財団法人)とちぎ未来づくり財団が管理をしており、その財団の中には青少年育成課という子どもに関連する部署があるが、そこと連携をすることなどは考えているか。

(板橋副市長) お話の通り、埋蔵文化財センターは県の施設である。あれだけの大きな建物であるため、花まつりに来られた方にその建物について聞かれることがあったが、今まで中に入ることができなかった。県にお願いをして、現在は一部ではあるが、館内を見学できるようになった。また、風土記の丘資料館は、県から譲り受け、市が直営で運

営し、見学者が大きく増えた。埋蔵文化財センターと風土記の丘資料館の連携も始めている。さらに、壬生町、上三川町と古墳のつながりで連携し、イベントなどを行っている。県への通年公開型にしてもらおうよう県へ要望等も行っているところではあるが、ご指摘いただいた通り、やはり県との連携は重要であるので、今後もさらに強化していきたい。

(中村会長) ありがとうございます。他になければ次の議題へ入らせていただく。

(4) 下野市における今後の地方創生推進事業の取組みについて

(中村会長) 次の議題は、平成29年度に予定する地方創生の関連事業についてである。先ほど話があったように、これから新年度の予算が議会に出されることから、あくまで「予定」をしているものであることをご了解の上で報告いただく。それでは、事務局より資料の説明をお願いする。

(事務局) 資料5「平成29年度に予定する主な地方創生関連事業一覧表」に基づき説明。

- 国会審議中ではあるが、国の平成29年度の予算において、地方創生推進交付金として1,000億円が決定する見込みである。本市においても、この地方創生推進交付金の申請に向け、準備を進めているところである。
- 当該交付金は、ソフト事業を主に対象とするものではあるが、3年間の計画期間を通した総事業費の2分の1未満であり、密接に関連するものである場合にはハード事業も対象となる。
- 原則、各市町、事業費1億円が上限となり、その2分の1が交付金として国から出る。
- 対象事業は、先駆性、官民協働、地域間連携、政策間連携、自立性の5つの要件を満たし、官民協働の視点から人材の育成を行い、事業推進主体の形成を行っていくことを国は求めている。
- あくまで資料に掲載されている事業については、すべてが地方創生推進交付金の申請を見据えたものではなく、また、議会審議前につき、腹案として参考までにお示しした。

(中村会長) ただいま、事務局より説明があった。ご意見やご質問がありましたらお願いしたい。

(山口委員) 観光プロモーション事業におけるモニターツアーと、出会い・婚活の支援における婚活バスツアーは担当課が異なっているが、婚活バスツアーが年3回の開催であれば、そのうちの1回でも、2回でもモニターツアーと併せて開催をしてはどうか。先ほどモニターツアーの参加者の多くが50代近辺ということであったので、併せて開催することで参加者の低年齢化にもなる上、限られた財源の中で行うことを考えれば、組み合わせることができればよいのではないかと。

また、現在、市のプロモーションを積極的に行い、露出は増えてきていると思うが、それを受けて、下野市を訪れる方の受け手側の準備がまだまだ足りないと思われる。例えば、イベント時以外の受け皿となる商業施設などの整備もしていく必要があり、空き店舗の活用などの奨励なども、地方創生の関連事業と位置付けて取り組んでほしい。

(中村会長) これらに対して、いかがか。

(長総合政策部長) 観光モニターツアーと婚活バスツアーを併せて開催する点については、ご意見として頂戴し、担当課と協議していきたい。

(鈴木委員) 資料にあげられている事業は、いつ通り、内示はどうなるのか。

(事務局) 地方創生に関連する事業に関しては、資料にあげているもの以外にも実施をしたいと考えている事業がある。ただし、これから3月の議会において、新年度当初予算の審議を行うのでご理解いただきたい。なお、これらの事業をすべて地方創生推進交付金に申請するというわけではない。

(中村会長) これらの事業は、議会で新年度の当初予算が審議され、予算が通過すれば実施するということであり、事業を実施するか否かと、先ほどの地方創生推進交付金に申請するか否か（国が内示を出すかどうか）とは別個の話であるということによろしいか。

(事務局) おっしゃる通りである。

(高德産業振興部長) 先ほどご意見の出た、空き店舗の件について付け加える。空き店舗の奨励金については、平成18年から実施をしており、家賃の2分の1を補助しており、今年度は4件の活用があった。また、今年度より、まちなか商店リフォーム補助というものを新しく創設した。これは、空き店舗のリフォームへの補助であり、今年度6件の活用があった。商工会よりPRをしていただき、活用を促した。次年度以降も継続をしていく予定である。

(中村会長) おそらく、委員の皆様の活動にも関わってくることが多いと思われる。国策として、国が矢継ぎ早に新しい交付金や制度を打ち出しているが、これら制度についても私たちも自分なりに整理をしながら地方創生を考えていかなければならない。私は、様々な自治体を見ているが、全国的に見ても下野市は総合戦略のKPIの数が多く、幅広く様々な分野で地方創生を取り組もうとしている姿勢や、自ら積極的に交付金など活用していこうという前向きな姿勢を強く感じているところである。私たちも、一緒に考え、後押しできるようにしていければと思う。

(5) その他

(中村会長) それでは、今日の議題についてだけではなく、全体を通してでも何

- かご意見やご質問等ありましたらお願いしたい。
- (高田委員) 本日の資料4の中で、コスプレイベントがグリムの館で開催されているということだが、これだけ人気が出ており、年25回も開催されているのであれば、これをうまく活用していければと思うが、そもそもどのような内容でイベントが行われているのか。分かる範囲で教えていただきたい。
- (野澤教育次長) インターネット上にコスプレの専用サイトがあり、そのサイト内で各団体が、いつどこでイベントをやるか告知し、参加者を募集している。グリムの館がドイツ風の建物で、コスプレの背景として合うということで会場として人気となっている。コスプレをされる方は電車を利用して来園し、会場で衣装に着替え、写真撮影などをして楽しんでいるが、控え室が狭く大変困っているということで、資料4でご説明した事業を進めることとなった。
- (高田委員) 数年前から、コスプレの衣装を着た方が近所を歩いていることは、耳にしていた。市のイベントでも、これだけの人数を集めることは大変であるので、きちんと周囲の住民にも知らせ、それを盛り上げる方向で市もバックアップしていければよいのではないだろうか。
- (野澤教育次長) 近所の住民の方の中には、そのような格好で近所を歩かれることに対して迷惑だと感じる方もいらっしゃるので、グリムの館でも敷地の外に出る場合には配慮をお願いしているのが現状である。
- (中村会長) グリムには、グリムの森もあり、館だけでなく公園内も良い雰囲気がある場所だと聞いている。その風景全体が、コスプレをされる方々に好評なのだろう。対立するのではなく、歓迎ムードがあるとまたコスプレをしに下野市に来る方も、周囲に迷惑をかけないように意識が変わってくるのかもしれない。
- (山口委員) コスプレというサブカルチャーは、まだ世間での認知や理解が足りない部分があり、また、コスプレという趣味は仲間内で楽しむという特徴がある。その特徴を壊して、オープンに行ってしまうとコスプレをする方はやりにくくなってしまい、居心地が悪くなり来なくなってしまう。私は近所に住んでおり、日曜日などよく見かけるが、石橋駅からスーツケースを引いて列をなしてやって来る。また、お昼を食べる場所がないと近所のコンビニで食事をしている。市としては、そのような点をサポートしてあげるような形で迎え入れる体制を整えていくことがいいのではないかと。迎え入れる側は、つかず離れずの関係でいないとうまくいかないと思われる。
- (長総合政策部長) この点については、コスプレを活用していけないかということで議会の一般質問においてもご意見をいただいた。総合政策課においても、ユーチューブ動画コンテンツに出演をお願いするなど、アプローチを試みたが、山口委員からお話があったように、閉鎖的なグル

ープが多く、広く公開されるような動画の撮影などには嫌悪感を抱く方が多いということが分かった。今後も、アプローチを試みたいと思うが、コスプレのコミュニティを壊さないように心掛ける必要がある。

- (中村会長) この点、コスプレに抵抗のない世代である、しもつけ未来塾のような若者のアイデアなどを取り入れることも一つかもしれない。様々な課題はあるものの、グリムの館というすばらしい地域資源があるからこそ、起きている現象であるので、うまく盛り上げられるようにしていきたい。コスプレ以外について、他にご意見はいかがか。
- (永山委員) 資料3に掲載されているツール・ド・とちぎについて、「コースになるのは来年」と記載があるが、これは下野市がコースになるのが来年ということか。
- (長総合政策部長) ツール・ド・とちぎについては、今年と来年の2年にわたり大会が開催され、来年、下野市の一部がコースとなる。
- (永山委員) 来年と今年の2年間で県内の全市町がコースとなるので、負担金を支払うということか。
- (長総合政策部長) おっしゃるとおりである。
- (中村会長) 自転車で地域を盛り上げる動きが、最近県内で目立ってきている。下野市は平地なので、レースではスピードが出て迫力があることと思う。
- (磯辺委員) 本日、配付された移住セミナーとシティプロモーション活動の様子の写真が大変参考になった。ホームページを拝見しても、人の映っていない写真が多かったので、どのような活動をしているのか見えてこなかった。実際、写真を見ると、ブースに人が集まり、ペッパーに触れている様子が見て取れる。今後も、私たちが現地に行って視察することが難しいものについては、このように写真を載せるなどしていただくと、分かりやすく参考にもなり、大変ありがたい。
- (中村会長) 確かに、現場の様子などは可能な範囲で、このように写真で提供していただくとよい。
- (事務局) 本日配付の資料については、本議題の最後にまとめて説明をさせていただく予定であったが、只今、ご指摘いただいたのでご説明させていただく。シティプロモーション活動の様子などは、活動の記録として写真を撮っているが、一般の方の映り込みもあるため、ホームページやツイッターなど SNS への掲載は控えていたところである。資料として配付したものは、平成29年1月22日に、ふるさと回帰支援センターで開催された「とちぎ暮らし移住セミナー」の様子の写真である。1枚目の写真は、県が採用している移住相談員の遠藤さんが全体の説明をしている写真である。この方がふるさと回帰支援センターに常駐し、県全体の移住相談を受けている。2枚目の写真は、実際に下野市に移住された方を、先輩移住者としてお

招きし、下野市への移住体験をセミナー参加者へお話をいただいた様子である。この後、参加した各市町に分かれての個別相談会があり、下野市に興味をもっていたいただいた東京在住の参加者の相談にのっている様子が3枚目の写真である。なお、4枚目の写真は、同日に同会場で行われていた福岡県の移住セミナーの様子を参考までに載せた。また、シティプロモーション活動の様子については、有楽町駅前で開催した際の写真を載せている。パンフレットを配るだけではなく、バックボードを設置し、パソコンではユーチューブ動画を流し、ペッパーを活用して市のPRをするとともに、観光協会が物販などを行い、シティプロモーション活動を行っている。その他、当日配付した資料について説明させていただく。市の取組やイベントのご案内として、ユーチューブ動画「しもサタチャンネル」のパンフレット、ペッパーの市内小中学校への導入に関する新聞記事、ツール・ド・とちぎのチラシ、しもつけお笑いグランプリのチラシを配付させていただいた。

(中村会長) 配付資料の説明がありました。配付資料についても含めて、なにかご質問等あるか。

(塚原委員) 地方創生ということで様々な自治体がプロモーション動画を作成している。宮崎県日向市の動画は、体形にコンプレックスのある男性が失恋し、日向市の海でサーフィンを行い痩せて帰ってくるという奇抜な内容で再生回数が大変伸びているという報道をテレビで拝見した。その他、佐賀市の動画など、再生回数が多い動画はどれも奇抜な内容のものが多い。下野市ももっと面白く、奇抜な動画を制作し、再生回数を伸ばして欲しい。今はどこでも動画制作を行っており、同じような内容では誰も見てくれない。アクセスして見てもらうことが重要であるので、下野市が「しものし」と読まれたいためにも、是非、お願いしたい。

(板橋副市長) 下野市をどう売り込むかということであるが、行政の頭ではどうも固く、また、これは行政の動画としてよろしくないのではないかなど、ブレーキをかけているところが多い。やはり、若い人や民間のアイデアを取り入れていかないといけない。昨日、採用2年目の職員の初級職員実務報告会及びしもつけ未来塾など自主研究グループの研究発表会が行われた。その中で、下野市が住みやすく、暮らしやすいということは市民の方だけでなく、多くの方が知っている。しかし、下野市にはわくわくすることが少ない。そのようなことを若手職員から指摘され、私もその通りだと感じた。下野市に来ると、なにかわくわくすることが体験できるという仕組みを作っていかなければならない。幸福度を向上させることはもちろんのこと、わくわくすることを次々生み出すことも必要ではないだろうか。そのためには、行政だけではなく、市民協働で行う必要がある。わくわ

く感を生み出す一つが、既存の資源を活用した事業となり、先ほども話が出ていたグリムの森に建設予定のお菓子の家の事業である。そのような取組を市民のみならず、民間の力も借りて行ってきたい。

(中村会長) ありがとうございます。是非、わくわくする下野市にしていきたい。お時間もそろそろとなります、その他何かご意見等あるか。

(小島委員) 石橋駅のトイレについてであるが、汚れていて、使うには抵抗のある状況である。これだけ、様々な取組で人を呼びこもうとする一方で、現場では誰も入りたくないようなトイレがある。やはりトイレは重要で、きれいで草花があり誰もが気持ちよく使えるトイレがなければならない。道の駅があれだけ人気があるのは、トイレがきれいだからである。夜明け前を改修しての古民家カフェの話も出ていたが、是非きれいなトイレ、特に女性が使いたいと思うようなトイレを整備してほしい。また、清掃に関してはシルバー人材を積極的に活用してはどうか。なかなか清掃が行き届かないという状況がある一方で、シルバー人材では仕事がないという状況がある。駅など市の玄関口となる駅などのトイレを是非ともきれいに保ってほしいかがいかか。

(石島建設水道部長) 石橋駅西口のトイレについてご指摘いただいたが、他の駅のトイレについても、若干そのような状況の時がある。現在も、シルバー人材に委託をして清掃をお願いしているところではあるが、汚く使った方がいると、その後に使われる方がそのように感じることもあるのが現状である。こまめに見ていただくようお願いをしていく。また、小金井駅の東口についてはトイレの増築、改修を行っているが、石橋駅のトイレなども早いうちに改修等進めていきたい。

(中村会長) ありがとうございます。お時間となりました。では、最後に事務局より連絡等をお願いする。

(事務局) 委員の皆様におかれましては、平成29年3月31日をもって2年間の任期が満了となる。2年間、誠にありがとうございました。公募委員の皆様はじめ、学識経験者の委員の皆様におかれましては、引き続き2期目の委員についても何卒、お願いしたい。新年度に改めてご依頼の通知を送付させていただく。また、各団体よりご推薦いただいている方々につきましては、各団体宛にご推薦をお願いする予定である。新年度においては、7月ごろに総合計画審議会を開催し、平成28年度までのKPIの進捗状況の報告を行う予定となっている。

(中村会長) 議事は以上となります。委員の皆様のご協力のおかげで、スムーズに進行を行うことができました。ありがとうございました。それでは進行を事務局へお返しいたします。

○閉会

(事務局)

中村会長ありがとうございました。また、委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。以上をもちまして平成28年度第2回下野市総合計画審議会を閉会する。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会 長.....

署名委員.....

署名委員.....